

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒

奥秩父 乾徳山ー樹林と草原と岩峰とー

6月下旬、奥秩父・乾徳山(ケトクサン)(2031m)に出かけた。塩山にある武田信玄家の菩提寺・恵林寺の山号が乾徳山。乾徳山は、この恵林寺の開祖・夢想国師が修行した山といわれる。



国師ヶ原からの乾徳山(秋)

塩山からタクシー乗り合わせで9時半、乾徳山登山口到着。鳥居をくぐり、昼なお暗いスギ林の中の登りが始まる。銀晶水を過ぎた頃から、雑木林に変わり、岩ゴロゴロの急登が続く。10時20分、錦晶水到着。冷たくて水量豊富な水場で一休み。

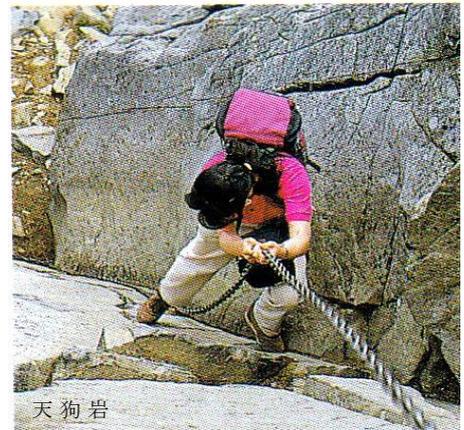
この辺から傾斜も緩み、ササとカラマツの気持ち良い草原散歩となる。咲き乱れるアヤメの紫色とレンゲツツジのピンク色が目に鮮やかである。



レンゲツツジの国師ヶ原

国師ヶ原の四差路を過ぎ、草原が終わり、ザレ場を一登りして11時40分、主稜線に跳び出した。ここを扇平という。見晴らしが良く、先客5~6人が座りこんで弁当を拡げていた。

後は、道満尾根の分岐を見送り、見晴らしのないコメツガやシラビソの樹林帯の尾根道。岩塊を左に右に縫いながら、次第に高度を稼いでいく。そして、いよいよ岩稜帯が始まる。15m程の鎖のある念仏岩は、足がかりがしっかりしていて難なく乗り越える。山頂直下の天狗岩は、あたかも本を開いて立てたような15m程の垂直の岩場で、手がかり足がかりがほとんど無く、ひたすら鎖にすがって腕力で登った。



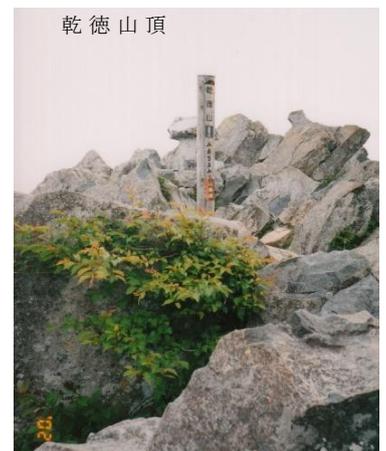
天狗岩

12時

半、乾徳山頂。巨岩の重なり合う狭い山頂は、まさに天空に突き出た展望台である。正面に居座る黒金山のかなたに国師ヶ岳、金峰山。東には奥秩父から大菩薩、遠くは奥多摩の峰々。南には富士山に続いて南アルプスが霞んで見えた。

厚かましくも頂上の要所を占領して、我が物顔に眺望を楽しみながら昼食休憩をとった。

帰りは、朝来た道と同じ道を辿ったが、何か所もの鎖場でオバサングループを待つのにすっかり時間を取られ、乾徳山登山口帰着が15時40分。次のバスを待つ間、ご多分に洩れず、バス停前の乾徳公園の草っ原に座りこんで、賑やかにビールパーティーと相成った。



乾徳山頂